

答

技術にこだわったメーカーでものづくりをするとどんな楽しさがあるのか  
その答えは私達といっしょに働く中で、あなた自身が見つけてください。



株式会社 上杉輸送機製作所

本社工場 〒557-0063 大阪市西成区南津守5丁目3番47号

養父工場 〒667-0112 兵庫県養父市養父市場字柳原1059番地

URL <http://www.prestar.jp/>

問題

技術にこだわったメーカーでものづくりをすると  
どんな楽しさがあると思いますか？



製品問題

どれが  
上杉輸送機の製品か  
わかりますか？



全部正解です。  
当社は輸送用機器の  
総合メーカーです。

輸送用機器専門メーカーとして設立五十年以上、  
ひたすらに日本国内で生産しています。「MADE  
IN JAPAN」が私たちの誇りです。

台車について言えば外見そっくり、値段は格安の  
中国製品がたくさん出回っています。しかし、いざ  
使ってみれば、その差は歴然。重い荷物を載せた  
ときにスムーズに動くかどうか、長持ちするかどう  
か、すべての面で違いを体感出来ると思います。

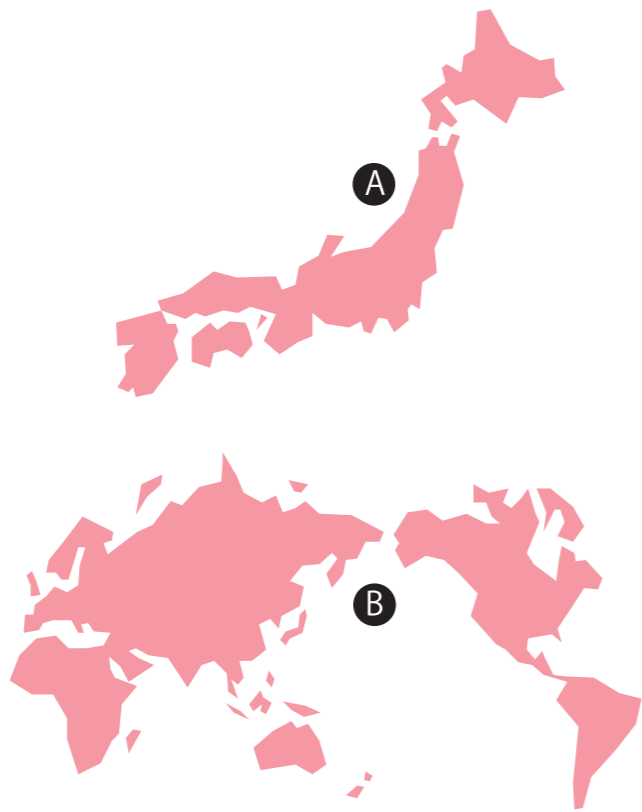
ただ、国内で生産すれば「MADE IN JAPAN」なの  
ではありません。

車輪に良質のゴムを使い、キャスターに工夫を凝  
らし、毎年のように改良する。

そんな品質と性能へのあくなきこだわりの姿勢が  
生み出す優秀な製品達こそが、私達が目指す  
「MADE IN JAPAN」なのです。

## 販売問題

どちらが  
上杉輸送機の販売する  
市場だと思いますか？



[B] です。  
日本国内にとどまらず、  
世界中に輸出しています。

大阪市内の本社工場は台車と一輪車、兵庫県の養父工場ではカゴ車とスリムカート。国内で生産された高品質な製品の行く先は国内にとどまらず、全世界です。

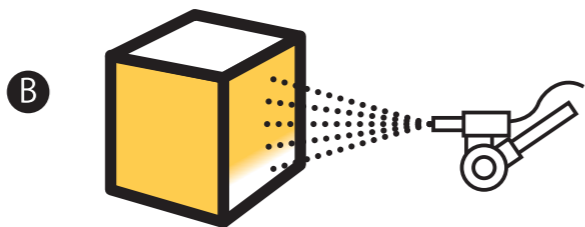
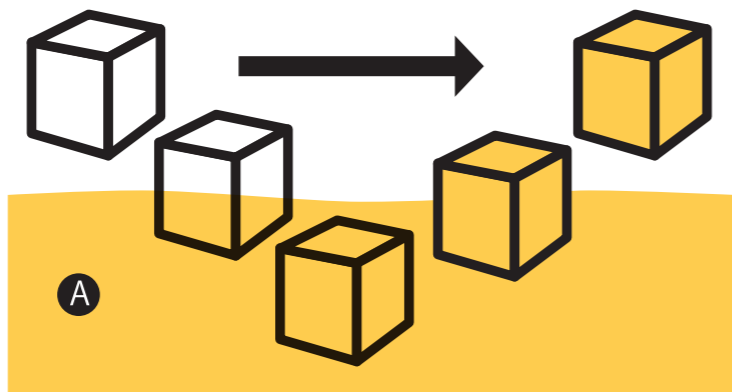
「MADE IN JAPAN」の品質と性能を武器にアジア、中東、欧州と上杉輸送機製作所の製品はグローバルに展開されています。

現在、私達の製品ブランド「PRESTAR」は海外で模倣者が出るほどの国際ブランドに成長しています。それは「PRESTAR」の品質が国境を越えて認められている証です。

「PRESTAR」は今日も世界中の「運ぶ」人々のベストパートナーでありつづけています。

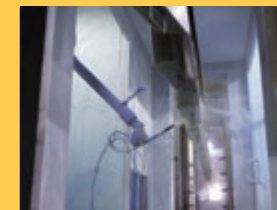
## 技術問題

どちらの方法が  
完璧な塗装ができると  
思いますか？



当然 [A] ですよね。  
でも、当社では  
両方とも行います。

[A]は電着塗装といって、塗料の入った槽の中に製品をドップリと浸す方法ですから、塗料を吹き付ける[B]の粉体塗装と比較すれば、製品のすみずみまで塗料が入り込み、完璧な塗装ができることになります。[B]の粉体塗装だけでは、年数の経過と共に継ぎ目の部分など一部でサビが発生する恐れがどうしても残ります。では電着塗装だけで十分だとの判断も成り立ちますが、この方法だと塗装する塗料の色が限定されてしまいます。だから、たかがカゴ車なのに?と思われるかもしれませんが、当社ではカチオン電着塗装を行い、なおかつ粉体塗装装置で塗料を吹き付けます。この塗装方法、自動車メーカーのやり方と同じです。クルマならいざ知らず、カゴ車を使用される方で、パイプとパイプの継ぎ目部分やネジの一部分のサビを気にとめる方は少ないでしょう。だからといって私たち技術者が自身で納得できないものを世の中に送りだしても良いということにならないと思うのです。



粉体塗装



カチオン電着塗装

## 大事な問題

上杉輸送機では工場の  
自動化が進んでいます。  
では、大切なのは人ですか、  
設備ですか？

A



B



もちろん [A] でしょう。  
私たちの製品も設備も、  
すべて人によって  
支えられています。

私たちの会社には10代の若手から、80才を超えても元気なシルバーさんまで様々な人々が働いています。

働ける人にはいつまでも元気に働いてもらう、働く人に対してあったかい会社でいたいと思っています。そのために年配の方にも働いてもらいやすい環境づくりにも取り組んでいます。

設備も、自動化も、技術も大事ですが、その前にもっと大切なのが人。人を大切にしない会社から、いい技術やいい製品が生まれることなんてないというのが私たちの持論。

工場の自動化はリストラのためではなく、社員が働きやすくなるためにあるのだと思っています。

● 本社工場



1970年に完成した大阪市内の本社工場は40年以上も、上杉の製品を作りつづけている歴史ある工場です。

ここでは台車と一輪車を原材料から最終製品まで製造。大型プレス機が揃い、鉄の生地から製品を大量生産出来る体制が整っています。

また、製品開発部門もあり、製品の開発や品質向上にたゆまぬ努力を続けています。

● 養父工場

養父工場は但馬牛で有名な兵庫県但馬地方にある、1993年完成の工場で、カゴ車とスリムカートの製造をおこなっています。

溶接・塗装・組立まで連結した一貫生産ラインや40台以上のロボット溶接機群を初めとする最新鋭設備の揃った、日本有数のカゴ車製造拠点です。

本社工場と養父工場は上杉輸送機の兄弟工場として力を合わせ、PRESTAR製品を日本で作りつづけています。



上杉輸送機 ものづくりの現場

■ プレス

1200tトランスファプレスから30t小型プレスまで大小のプレスを用いて、輸送器具に使用する部品の大半を社内でも大量生産しています。部品から国内生産にこだわっています。



■ 塗装ライン

本社工場、養父工場ともに工場内に全自動塗装ラインを完備。特に養父工場の塗装はカチオン電着塗装+粉体塗装のダブルコーティング。自動車並みの高品質塗装を実現しています。



■ 太陽光発電

本社工場、養父工場に太陽光発電パネルを設置し、CO2排出量の削減と省エネに努めています。上杉輸送機は未来への責任を果たす企業でありたいと考えています。



■ インジェクション (射出成形機)

射出成形機で原料ペレットから、プラ部品やプラ台車を製造。1600tから280tまで大小の射出成形機を揃え、様々な製品に対応しています。上杉輸送機はプラスチック製品も自社製造です。

